



平成30年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年3月16日
上場取引所 東

上場会社名 ベルグアース株式会社
コード番号 1383 URL <http://www.bergearth.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一彦
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営管理部管掌(氏名) 薬師寺 朝徳 (TEL) 0895-20-8231
四半期報告書提出予定日 平成30年3月16日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年10月期第1四半期の連結業績(平成29年11月1日～平成30年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|--------------|-----|------|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年10月期第1四半期 | 463 | △7.7 | △254 | — | △252 | — | △168 | — |
| 29年10月期第1四半期 | 501 | 16.2 | △235 | — | △236 | — | △159 | — |

(注) 包括利益 30年10月期第1四半期 △179百万円(—%) 29年10月期第1四半期 △171百万円(—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|--------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年10月期第1四半期 | △132.65 | — |
| 29年10月期第1四半期 | △125.35 | — |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|--------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 30年10月期第1四半期 | 3,229 | 1,137 | 29.4 |
| 29年10月期 | 3,640 | 1,329 | 31.1 |

(参考) 自己資本 30年10月期第1四半期 95百万円 29年10月期 1,132百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年10月期 | — | 0.00 | — | 10.00 | 10.00 |
| 30年10月期 | — | 0.00 | — | 10.00 | 10.00 |
| 30年10月期(予想) | — | 0.00 | — | 10.00 | 10.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年10月期の連結業績予想(平成29年11月1日～平成30年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-----|------|---|------|---|-----------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 4,798 | 3.8 | 44 | — | 55 | — | 36 | — | 28.66 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|-----------|------------|-----------|------------|
| 30年10月期1Q | 1,269,900株 | 29年10月期 | 1,269,900株 |
| 30年10月期1Q | 200株 | 29年10月期 | 144株 |
| 30年10月期1Q | 1,269,727株 | 29年10月期1Q | 1,269,756株 |

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (セグメント情報等) | 9 |
| 2. その他 | 10 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの第1四半期連結累計期間(11月～1月)の業績につきましては、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少する時期であるため、売上高が他の四半期と比較して少額となる傾向にあります。一方、コスト面では、減価償却費や間接部門の人件費等が各四半期に概ね均等に発生することに加え、燃料費等の冬季経費が発生するなど季節的な業績変動要因があります。

このような状況で野菜苗生産販売事業の売上は概ね前期並みに推移しておりますが、平成29年10月31日をもってコンビニエンスストア事業を撤退したことにより、当第1四半期連結累計期間の売上高は463,279千円と前年同四半期と比べ38,480千円(△7.7%)の減収となりました。損益面につきましては、営業損失254,243千円(前年同四半期は営業損失235,035千円)、経常損失252,373千円(前年同四半期は経常損失236,290千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は168,430千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失159,160千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

① 野菜苗生産販売事業

当事業部門におきましては、引き続き閑散期の受注拡大のために取組んできました関東向けのピーマン、メロン苗やホームセンター向けの玉ねぎ苗等の売上が好調に推移しております。当第1四半期連結累計期間の売上高は441,392千円と前年同四半期と比べ1,558千円(0.4%)と増収となりました。損益面につきましては、人件費等の製造費用が増加した結果、セグメント損失(営業損失)は148,590千円(前年同四半期はセグメント損失121,575千円)となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

| 品目分類 | 売上高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|-----------|---------|------------|
| トマト苗 | 132,318 | 85.4 |
| キュウリ苗 | 141,824 | 102.5 |
| ナス苗 | 11,730 | 103.6 |
| スイカ苗 | 9,915 | 110.6 |
| メロン苗 | 90,442 | 104.4 |
| ピーマン類苗(注) | 23,997 | 183.6 |
| その他 | 31,163 | 117.0 |
| 合 計 | 441,392 | 100.4 |

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

| 規格分類 | 売上高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|------------------------------------|---------|------------|
| ポット苗(7.5cm～15cm) | 227,317 | 110.0 |
| 当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ等) | 120,772 | 84.4 |
| セル苗(288穴～72穴) | 69,302 | 98.5 |
| その他 | 24,000 | 122.3 |
| 合 計 | 441,392 | 100.4 |

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

| 納品地域分類 | 売上高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|--------|---------|------------|
| 北海道・東北 | 43,775 | 111.7 |
| 関東・甲信越 | 333,497 | 104.6 |
| 中部・北陸 | 13,701 | 93.2 |
| 近畿・中国 | 20,027 | 88.1 |
| 四国 | 13,712 | 80.6 |
| 九州・沖縄 | 16,678 | 61.2 |
| 合 計 | 441,392 | 100.4 |

(注) 静岡は「関東・甲信越」に含めて表示しております。

② 農業・園芸用タネ資材販売事業

当事業部門におきましては、株式会社むさしのタネの種子の販売を本格的に開始したことにより、種子売上高3,205千円を計上したものの、コンビニエンスストア事業が終了したことや農産物の仕入販売の縮小により、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は18,536千円(前年同四半期比68.8%減)となりました。一方で収益性が改善されたことにより、セグメント利益(営業利益)1,029千円(前年同四半期はセグメント損失5,084円)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの名称を従来の「流通事業」から変更しております。

③ 海外事業

当事業部門におきましては、中国山東省にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸を展開しております。また、平成29年12月に中国北京に新に合弁会社を設立し、本格的な中国国内での事業展開に向けての準備を進めており、引き続き海外事業部を中心に海外での事業拡大に向けて技術開発並びに中国国内を中心に農業関連のマーケット調査や市場開拓等を積極的に行っております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,881千円(前年同四半期比15.0%増)、セグメント損失(営業損失)13,869千円(前年同四半期はセグメント損失19,256千円)となりました。

④ その他の事業

当事業部門におきましては、育種事業及び貸し農園事業をおこなっており、売上高468千円、セグメント損失(営業損失)5,329千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ441,430千円(11.3%)減少の3,229,387千円となりました。これは、現金及び預金の減少64,342千円、受取手形及び売掛金の減少589,809千円、棚卸資産の増加132,753千円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ219,454千円(9.5%)減少の2,092,239千円となりました。これは支払手形及び買掛金の減少198,307千円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ191,975千円(14.4%)減少の1,137,148千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年10月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間において概ね計画通り推移していることから、平成29年12月11日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

1. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成30年1月31日) |
|-------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 419,659 | 355,316 |
| 受取手形及び売掛金 | 994,680 | 404,871 |
| 商品及び製品 | 31,354 | 26,164 |
| 仕掛品 | 63,070 | 174,209 |
| 原材料及び貯蔵品 | 100,473 | 127,277 |
| その他 | 61,302 | 152,643 |
| 貸倒引当金 | △1,713 | △1,758 |
| 流動資産合計 | 1,668,827 | 1,238,726 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,024,219 | 1,103,389 |
| 機械及び装置(純額) | 239,740 | 231,860 |
| 土地 | 481,683 | 481,683 |
| その他(純額) | 77,899 | 25,362 |
| 有形固定資産合計 | 1,823,543 | 1,842,296 |
| 無形固定資産 | 35,672 | 37,209 |
| 投資その他の資産 | 112,774 | 111,155 |
| 固定資産合計 | 1,971,990 | 1,990,661 |
| 資産合計 | 3,640,818 | 3,229,387 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成30年1月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 527,108 | 328,801 |
| 短期借入金 | 470,000 | 470,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 225,414 | 207,122 |
| 未払金 | 148,785 | 153,828 |
| 未払法人税等 | 17,121 | 2,861 |
| 賞与引当金 | 50,198 | 20,596 |
| その他 | 74,857 | 39,282 |
| 流動負債合計 | 1,513,485 | 1,222,491 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 613,540 | 683,193 |
| 資産除去債務 | 73,336 | 73,566 |
| その他 | 111,331 | 112,988 |
| 固定負債合計 | 798,208 | 869,747 |
| 負債合計 | 2,311,694 | 2,092,239 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 331,494 | 331,494 |
| 資本剰余金 | 241,494 | 241,494 |
| 利益剰余金 | 558,379 | 377,251 |
| 自己株式 | △204 | △293 |
| 株主資本合計 | 1,131,163 | 949,946 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,447 | 1,926 |
| 為替換算調整勘定 | △1,528 | △1,673 |
| その他の包括利益累計額合計 | 919 | 253 |
| 新株予約権 | 554 | 554 |
| 非支配株主持分 | 196,486 | 186,394 |
| 純資産合計 | 1,329,123 | 1,137,148 |
| 負債純資産合計 | 3,640,818 | 3,229,387 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 501,760 | 463,279 |
| 売上原価 | 500,219 | 484,693 |
| 売上総利益又は売上総損失(△) | 1,541 | △21,413 |
| 販売費及び一般管理費 | 236,576 | 232,830 |
| 営業損失(△) | △235,035 | △254,243 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3 | 0 |
| 受取配当金 | 60 | 70 |
| 受取手数料 | 818 | 607 |
| 補助金収入 | — | 2,728 |
| その他 | 1,138 | 1,289 |
| 営業外収益合計 | 2,020 | 4,696 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,109 | 1,044 |
| 持分法による投資損失 | 2,099 | 1,652 |
| その他 | 66 | 129 |
| 営業外費用合計 | 3,275 | 2,826 |
| 経常損失(△) | △236,290 | △252,373 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △236,290 | △252,373 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 512 | 512 |
| 法人税等調整額 | △64,290 | △74,362 |
| 法人税等合計 | △63,778 | △73,850 |
| 四半期純損失(△) | △172,511 | △178,522 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △13,351 | △10,092 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △159,160 | △168,430 |

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純損失(△) | △172,511 | △178,522 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 785 | △521 |
| 為替換算調整勘定 | △14 | △144 |
| その他の包括利益合計 | 771 | △666 |
| 四半期包括利益 | △171,739 | △179,188 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △158,388 | △169,096 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △13,351 | △10,092 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年11月1日至平成29年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------------|------------------------|---------|----------|--------------|--------------------------------|
| | 野菜苗生産 販売事業 | 農業・園芸用 タネ資材販売 事業 | 海外事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 439,833 | 59,422 | 2,504 | 501,760 | — | 501,760 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | 989 | 989 | △989 | — |
| 計 | 439,833 | 59,422 | 3,493 | 502,750 | △989 | 501,760 |
| セグメント損失(△) | △121,575 | △5,084 | △19,256 | △145,916 | △89,118 | △235,035 |

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△89,118千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年11月1日至平成30年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------------|------------------------|---------|----------|--------------|----------|--------------|--------------------------------|
| | 野菜苗生産 販売事業 | 農業・園芸用 タネ資材 販売事業 | 海外事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 441,392 | 18,536 | 2,881 | 462,811 | 468 | 463,279 | — | 463,279 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | 72 | 999 | 1,071 | 3,488 | 4,560 | △4,560 | — |
| 計 | 441,392 | 18,609 | 3,880 | 463,882 | 3,957 | 467,840 | △4,560 | 463,279 |
| セグメント利益又は 損失(△) | △148,590 | 1,029 | △13,869 | △161,429 | △5,329 | △166,758 | △87,484 | △254,243 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貸し農園事業及び育種事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△87,484千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

4. 当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの名称を変更しており、従来の「流通事業」を「農業・園芸用タネ資材販売事業」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称で記載しております。

2. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、国内市場の縮小、農業従事者の高齢化及び後継者不足など厳しい状況が続く環境の中で事業拡大に向けて、積極的に国内設備投資や研究技術開発を行い、海外事業も積極的に推進しております。その結果、これらの先行投資により、継続的に営業損失が発生しており継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。当社グループは、これらの事象等を解消するために以下の事項に取り組んでまいります。

- ① 苗事業の売上拡大及び収益性の改善
 - ・ 値上げを含む苗単価の見直しによる利益率の改善
 - ・ 自社農場、パートナー農場を生かした産地営業強化及び販路拡大と効率的な運営による生産性の向上
 - ・ 研究・技術開発を中心とした新商品の開発、生産工程の改善の推進による生産性の向上
 - ・ 全社的な苗品質の見直しによる安定した品質の確保
- ② 苗事業拡大における設備投資の在り方の見直し
 - ・ 自社農場の増設、他企業との連携による農場展開及び優良パートナー農場の開拓のバランスを整えることでの設備投資負担の軽減
 - ・ 効率化につながる機械装置、設備の改善及び導入
 - ・ 野菜以外の苗事業による設備や人員の稼働率の向上
- ③ 農業・園芸用タネ資材販売事業（流通事業）における事業内容の見直しと販売強化
 - ・ 青果物の仕入販売取引の見直し、専門業者との連携強化による苗事業や資材の販売事業における付加価値の向上
 - ・ 農業生産者及び園芸愛好家向けの種子や資材の販売強化
- ④ コスト削減策
 - ・ 間接経費の見直し及び削減
 - ・ 品質向上を前提とした生産資材や生産工程の見直しによる製造経費の削減
 - ・ 子会社である株式会社むさしのタネでの、コスト削減につながる優良品種の開発
- ⑤ 海外事業の推進
 - ・ 開発拠点の子会社である青島芽福陽園芸有限公司を通じ、本格的な苗事業による収益の向上
 - ・ 種子や農業資材等の輸出入による収益の確保
- ⑥ 関連会社との連携
 - ・ ファンガーデン株式会社の早期黒字化による収益の確保
 - ・ ベルグアースグループとファンガーデン株式会社との更なるシナジー効果の推進

以上の具体的な対応策を実施することにより、収益力の回復および経営基盤の強化を図り、当該事象等の改善に努めており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載していません。